

2026 年度 事業計画

社会福祉法人 西中国キリスト教社会事業団
広島キリスト教社会館

2025年度 広島キリスト教社会館 事業計画・統括

1. 基本計画

キリスト教の人間理解に基づき、設立の精神である平和と人権を守りつつ、地域の人々に仕えていく。広島キリスト教社会館保育所、学童クラブ(第1・第2・第3)、スペースこむぎ、デイサービスセンターかりん、障がい者の生活介護事業所かりん(共生型)、訪問介護事業所かりん、認知症カフェ虹(認知症対応)を行っている。これらの事業を西中国教区内外の諸教会・学校・施設の理解と支援のもとで、宣教と地域奉仕のわざとして運営する。

少子高齢化という社会情勢の中で、地域の状況も変化しつつあるが、支援を必要としている人々を支えるために、利用者とその家族の家庭環境や経済状況、社会的背景を理解し、個々にふさわしいはたらきかけを丁寧になしていきたい。そのために職員が内部・外部の研修に積極的に参加し、人権意識を高めつつ、職務に関わる技術の質的な向上に努めていきたい。職員の労働環境は厳しさを伴い、採用も困難な面もあるが、互いの配慮とチームワークを大切にしながら、心身共に健やかに働けるよう努めたい。人事面では各部署の責任者の交代や、職員の交替もあるが、利用者にとってこれまで通り安心して通える場所となるよう努めていきたい。

被差別地区に設立された社会館の歴史と設立の使命を踏まえて、様々な差別と人権・平和に関する取り組みを進め、日々の活動においてその姿勢を堅持して行くことを大切にしたい。

経営は厳しさを増しているが、公的補助金制度や資金を用いながら、効率的な資金運用に努めていきたい。老朽化した建物の改築に向けて、事業団全体とも連携しながら具体的な検討が進められているが、資金をどのように積み立てていくかが課題となっている。新たな事業の展開の可能性なども探りつつ、希望をもって取り組んでいきたい。

2. 課題と目標

- (1) 各部門の活動の共通理解と連携を深め、円滑な管理・運営体制を整える。
- (2) 地域の生活者の状況を調査・確認し、そのニーズを把握して利用者数の適正化、安定化に努める。
- (3) 社会館創立の意義と使命を理解し、部落差別、民族差別、平和、人権について学びを深める。
- (4) 園児・学童個々の状況や家庭環境を理解し、支援の必要な子どもと共に保育者・指導員も成長していけるようにしたい。
- (5) ハラスメントについての学びと対策、セクシュアル・マイノリティーへの理解を深める。
- (6) 外国籍の利用者への理解を深め、それぞれの文化的背景について学ぶ。
- (7) 生活介護を利用する障がい者への理解と、適切な支援について学びを深める
- (8) 職員の研修(内部、外部)による資質の向上をはかる。
- (9) 教区の諸教会との関わりを大切にし、募金や奉仕の継続的な協力を得る。
- (10) 社会館委員会は、活動内容を理解し、教区・教会関係から理解と協力が得られるよう努めていく。
- (11) 事業団全体の諸活動と連携し、協力し合って運営する。
- (12) 職員は日本基督教団、西中国教区、広島西分区の研修会等に、積極的に参加する。
- (13) 建物の改築に向けた取り組みを、具体的に進めていく。改築募金を呼びかける。

3. 広報活動

- (1) 「社会館だより」を年1回12月に発行。教団全教会と支援者に配布。
- (2) 各部で「園だより」「おたより」「こむぎだより」を発行。
- (3) ホームページをとおして、社会館全体の活動について情報発信する。
- (4) 主事・職員が、教会関係の集会等で活動を伝え、理解と協力を得る。

4. 諸活動

- (1) バザーを通して、地域の人々との交流を深める。
- (2) 地域のボランティアや、在日コリアンの方々の活動グループを受け入れ、交流を深める。
- (3) 各部の職員が、利用者および家族との交流を図り信頼関係を深めていく。
- (4) 中学生職場体験、教職課程実習生を受け入れ、広島女学院 YWCA の活動に協力する。
- (5) キリスト教関係、教区・地区の諸集会、教団部落差別問題委員会等の集会に参加、協力する。

2025年度 広島キリスト教社会館保育所 事業計画

保育事業

人口減少や少子化のあおりを受け園児数の減少が続いており、今後の経営に不安を感じながらも新たな補助金制度や公定価格の単価アップに助けられながら厳しい現状を乗り越えていきたい。

園児の獲得に向けてネット利用や園庭開放の充実、わかばパパ&わかばママ教室の実施も行う

各部会の内部研修も少しずつではあるが進展が見られ、理念と方針に基づいた保育内容の拡充を図りながら現代に合った保育内容を考察し子どもたちがのびのびと逞しく、そしておもいやりの気持ちが育つように頑張っていく。

また「不適切保育」や「児童虐待」「日本版DBS」等今までの感性からアップデートを求められる案件が散見される今日、当保育所でも改めて考えていかねばならないことを職員一人一人が気付き研修や研鑽を重ね、お互いがいい意味での牽制を行っていくことで職場の雰囲気の良い方向に保ち子どもも保護者も職員もが共に楽しく生きていけるようにウェルビーイングについて考えていきたい。そのためにもアンケート調査や意見箱を活用し満足度や意見、要望などを真摯に受けとめ、気付きや反省を踏まえて職員一同が一致団結して努めていきたい。

職員全体の各種研修会への派遣については定着してきたWEB研修を積極的に利用しスキルアップに努めていきたい。またキャリアアップ研修への計画的な派遣や受講を行うこととする。

障がい児保育については昨年度に引き続き園全体でサポートしながら理解を深めることや子ども同士の関係形成に向けて部会を中心に考えていきたい。

入所児童処遇改善補助事業に療育手帳を所有するパート職員の雇用も継続し、日々の交わりの中で園児たちの関わりを広げるものとしても行っていきたいところではあるが、勤務内容の検討も考える時期に来ているものと思われる。

保育園誰でも通園制度（仮称）については、その概要がはっきりしていないことから導入の是非を含めて慎重に検討していきたい。

園舎の老朽化も進んでおり建替えを検討しているが名案には至らないのが現状であり、現場の職員と一緒に働きやすい環境を模索しながら地域に必要とされる建物を考えていきたい。

子育て支援については月2回程度の園庭開放を通じて地域の未就園親子の育児相談等を行ってきたい。また在園児保護者同志の関係作りや充実した保護者会のあり方を模索していきたい。

1. 保育内容について

- ・ 保育方針に基づく保育全般の見なおし
- ・ 家庭訪問や個人面談等を通じて、保護者との信頼関係を深める。
- ・ 気になる子についての理解と支援
- ・ 各種行事の意義や必要性の見なおし
- ・ 多文化共生への取組み
- ・ 朝鮮学校幼稚園部との交流

2. 延長保育事業

- ・ 18:30～19:30までの1時間延長
- ・ 定員20名に対し、職員2～3人体制
- ・ 利用契約及び利用料徴収は直接当保育所が行う。
- ・ 未契約利用は500円/日

3. 障がい児保育事業

- ・ 必要に応じて認定審査会への要請を行う。
- ・ 教育保育アドバイザー訪問事業の活用
- ・ 就学時検診の内容について学ぶ
- ・ 小学校との意見交換及び連携
- ・ 保育士の研修派遣

2025年度 広島キリスト教社会館学童クラブ 事業計画

1. 基本方針

- ・生命や平和を大切にする心を育てる。
- ・学年をこえて、育ちあう仲間を作る。
- ・それぞれの子どもたちの持っている「良さ」を発揮できるように支える。
- ・子どもたち主体の場となるよう支援する。
- ・障がいのある子を積極的に受け入れ共に成長していくよう支援する。
- ・仲間を大切に、差別をしない、許さない、差別に負けない子どもたちを育てる。
- ・様々な文化に触れ、多文化コミュニケーションをとる。

2. 目的

- ・子どもたちや保護者に寄り添う
- ・子どもたちに適切な遊び及び生活の場を与え、その健全な育成を図る
- ・クラブ毎の特色を生かした魅力ある行事活動の充実化
- ・家庭でもない学校でもない地域で育つ子どもたちの居場所づくり

3. 重点実施項目

- ・ 事業運営及び職員の育成 …… ① 各クラブ間での交流活動を様々な形式で、協力し合い行う。
② 職員育成のための研修計画を管理者が作成し実施する。
- ・ 閉所時間延長の実施 …… 現況だと18時30分以降のお迎えを待つ子どもが増えている。
保護者が安心してお迎えに来れるよう、第1クラブのみ閉所時間を30分延長する。第2クラブ・第3クラブで居残りの児童がいる場合は第1クラブに連れて来て対応する。
・ 第1クラブ閉所時間の変更詳細
平日及び代休日等は 18時30分迄 → 19時00分迄
土曜日 17時30分迄 → 18時00分迄
- ・ スタッフ会議を新形式で実施 …… 毎月1回行うスタッフ会議は、下記の2段階形式で行う事とする。
①第1クラブにて、会議に参加する職員が集まり、第1・第2・第3の全体会議を1時間(10時～11時)行う。報告・注意事項等を伝達。
②第1・第2・第3クラブ職員全体を4～5人の小グループに分け、各クラブ間の情報共有・職場環境・今後の取り組み等についてのグループ討議を1時間(11時～12時)行い、職員同士のコミュニケーションにも繋げる。
- ・ 大切な取り組み …… 基本方針下線の6項目に沿って、職員は子どもたちや保護者の抱えている問題や背景・課題に対して、共に支え合い、差別をしない、許さない、差別に負けない子どもたちを育ていくため、現状必要とされる問題(人権に関わる事や社会問題)に積極的に取り組む。
- ・ ICT新システムの導入 …… 子どもの出欠管理、来所・帰宅の保護者安心通知、一斉連絡メール、連絡帳の電子化等、職員の負担を軽減させ、保護者が利用しやすいシステムを構築する。
- ・ 不登校児童の対応について …… 毎年度2～3人程、不登校になる子どもが発生している状況。学校には行けないが学童クラブには来所ができています。現在は13時から不登校の子どもを受け入れを行っているが、今後は不登校の子どもを受け入れを柔軟に対応したい。不登校になった子どもが発生した場合に限り、保護者と相談のうえ、午前中配置(10

- 時～14時)の職員を1名追加し、各クラブでローテーションで対応したい。また、保護者の支援に力を入れたい。
- ・ 交流活動について
 - …… ①クラブ内での、学年別活動等をクラブ間で協力し合いながら様々な形式で行う。
 - ②施設内の保育所やデイサービスとの交流を積極的に行い、社会館だからこそ出来る活動を行う。
 - ③他の児童クラブとの交流活動を行い、地域を越えた新しい取り組みを展開する。
 - ・ 次世代担い手の確保
 - …… 社会館の理念に基づき、児童や保護者に寄り添い、様々な課題に取り組むことができる人材を1名程度確保する。広島内の大学や専門学校等を訪問したり、インターシップの受入や実習体験も積極的に行う。

・
児童の居場所づくりの課題について

- ・ 学年別活動を定期的に行い普段は別々の子ども同士の交流の場として活用し、同学年だけでなく異学年同士の居場所づくりを展開する
- ・ 以前利用していた児童や卒業生、地域の児童が気軽に立ち寄れる「居場所」を目指すため、小学校で終わりではなく、中学・高校生の居場所として自施設の「スペースこむぎ」に繋げ途切れる事のない関係性を築いていく。

2025年度 広島キリスト教社会館スペースこむぎ 事業計画

はじめに

広島市の「ひとり親家庭等居場所作り事業」という補助事業「スペースこむぎ」は、事業名がひとり親家庭等と限定されており、対象の児童が利用しにくい状況となっていたことから、当施設では対象外の児童も柔軟に受け入れを行い、誰もが集う場を目指し運営を行ってきた。行政にはひとり親等に限らず、両親がいる共働き家庭でも、物価高騰の影響もあり、生活が大変な家庭はたくさんあるという事に加え、補助金額と事業内容が見合わず繰入金があれば事業が成り立たない現状の中、補助金の拡充を何年にも渡りお願いしてきた。その甲斐もあり、2025年度より、「ひとり親家庭等居場所作り事業」は、新たに「子育て家庭等居場所作り事業」となり、大幅ではないが補助金も拡充される事となった。今後は、子育てをしている全ての家庭が、気軽に集う事の出来る地域の居場所として事業を展開していく。

1. 基本方針

ひとり親家庭等(養育環境に課題のある家庭を含む)に限らず、広島市内の小学校就学の始期から満18歳に達する年度の末日までの間にある者(未就学の弟妹を含む。)及びその家庭(以下「対象児童」という。)の児童であって、子育て世帯の「こども」と「親」の各々が、気軽に交流し安心して集う事のできる「居場所」を提供し、もって、こどもの心の安定や学習意欲の向上及び親の子育ての悩み等の解消を図る事を目的とする。子ども一人一人の人権に十分配慮するとともに、差別をしない、差別に負けないよう、学校や家庭、地域全体で支えながら、真っすぐに育つ麦のように子どもたちを育てる。

安心して相談する事が出来る場所となるよう、子どもや保護者等に寄り添いながら、学習活動・こども食堂・交流事業を通して信頼関係を大切に活動を行っていく。

社会館や地域で育った子どもたちがいつでも帰って来られる様な居場所を目指す。

2. 重点実施項目

- ・ フリースペース(居場所)の設置 …… 子どもたちが引き続き継続して通う事ができるよう、未就学から高校生までを対象にした自由参加可能な居場所事業を引き続き行う。
- ・ 中学・高校生の事業を展開 …… 中学・高校生の児童が、自主性を持って様々な活動に参加できるよう支援する。また、放課後児童クラブ等の行事にも参加可能なプログラムを考えて行きたい。
- ・ ボランティア等の協力 …… 広島市社協や他のボランティア団体に学習・遊び・調理等のボランティアを募り、利用者支援を充実させる

2025年度 デイサービスセンターかりん 事業計画

1. 基本方針

利用者が可能な限り住み慣れた地域、生活環境において自立した日常生活を営むことが出来るよう、その人らしさを大切にし、生活意欲を増進させ、より豊かな日常生活を送れるよう援助する。

生活相談についても積極的に行い、利用者及び家族と信頼できる関係を作り、利用者の人権を尊重した援助を行い、家族等の身体的、精神的負担の軽減を図る。

利用者と職員が共に過ごし、共に楽しみ、家庭的な雰囲気を大切にする。

同性介護を行い、高齢者、障がい者全ての人の人権を尊重する。

在日韓国人、朝鮮人、中国帰国者、中国人、障がい者も積極的に受け入れ、利用者のこれまでの生活史に思いをはせ、寄り添った介護を行う。

地域との結びつきを重視し、広島市当局、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター・障がい者基幹相談センター・障がい者相談支援センター等と密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努める。

2. 重点実施項目

常に地域に目を配り、介護の必要な高齢者・障がい者に介護の手を差し伸べる。

生活介護も定着してきているが、更に障がい者を積極的に受け入れられる体制を充実していく。

感染防止対策を徹底し、感染症を防ぎ、出来る限り利用者、家族に継続的なサービスの提供を行う。

在日韓国人、朝鮮人、中国帰国者、中国人、障がい者等、共生のプログラムを研究し、充実させる。

研修で学んだ知識や介護技術が発揮できるよう介護職員の育成を行う。

社会館の理念である先駆者としての役割を念頭に置いて、地域のニーズを掘り起こしていく。

建て替えに向けて、社会館の未来のあり方を検討し、スタッフみんなで力を尽くす。

高齢福祉・障がい者福祉の現場を担う施設として、起こっている様々な問題を改善するよう外部に訴えていく。

2025年度 訪問介護事業所かりん 事業計画

1. 基本方針

利用者が可能な限り住み慣れた地域、生活環境において自立した日常生活を営むことが出来るよう、入浴、排せつ、食事の介護その他の生活全般にわたる支援を行うことにより、利用者の心身機能の維持回復を図り、もって利用者の生活機能の維持又は向上を目指す。

地域との結びつきを重視し、広島市、地域包括支援センター、居宅介護支援事業者、他のサービス事業者等と綿密な連携を図り、一人一人のニーズに合った総合的なサービスの提供に努める。

2. 重点実施項目

- | | | | |
|---|---------------|----|--|
| ・ | 介護人材確保の取り組み | …… | 訪問介護職の人材不足が深刻化している中、職員も高齢化してきている。新規職員確保に向けた取り組み等を行い、柔軟に対応できる訪問介護体制を構築する。 |
| ・ | 研修による人材育成 | …… | 研修計画に沿って、職員個々に応じた研修を行う。研修で学んだ知識や能力が発揮できるよう職員の育成に取り組む。 |
| ・ | 介護保険外サービスの見直し | …… | 介護保険外サービスにも積極的に取り組み、保険対象外の方が利用しやすい単価を設定し保険外サービスの充実化を図る。 |
| ・ | 感染症対策の徹底 | …… | 利用者宅訪問時での感染症対策として検温・マスク着用・手指消毒等の感染症対策を徹底する。 |

2025年度 広島キリスト教社会館虹カフェ 事業計画

1. 基本方針。

認知症の方とその家族等が気軽に集い、交流できる場所として、原則、毎月第一土曜日に開催する。

毎回、イベントを開催する。認知症に関する学習、制作・レク、出し物を

医療、介護、福祉などの専門職による相談やサービスに関する情報を提供、認知症に関する講習会の開催など、身近な地域の人に関わり、地域全体で支援していく取り組みを目指す。

利用者の相談にのり、必要な方には専門機関を紹介し介護サービスに繋げていく。

行政発行の認知症についてのパンフの配布、認知症についての書籍の貸し出しを行い、認知症について理解を深めていただく。

職員2人では体制は不十分なので、ボランティア（3名）に協力していただく。更にボランティアの参加を呼びかける。

観音地域包括支援センター、福島病院リハビリ科、共催団体 福島生協病院、「複合型介護施設ありらの家」から引き続き協力を得る。

2. 重点実施項目

・感染症対策の徹底

……… 事業実施時の感染症対策として、マスク着用・手指消毒・施設内の消毒清掃等を行い感染症対策を徹底して開催する。